

# 教育文化・観光施設のみどころ・年間行事カレンダー

**草野心平記念文学館** ☎83-0005

## 草野心平のオノマトペ 生きてゆく擬音

オノマトペ（擬音語）を用いた草野心平の詩を取り上げ、自筆原稿や随筆、書籍などの関連資料を通し、その作品の魅力を紹介します。

**とき** 4月17日(出)～6月27日(日)

草野心平 十和田湖上にて▶ 1951年 撮影 土方定一



**考古資料館** ☎43-0391

## 発掘速報展

令和2年度に市内外で行われた遺跡の発掘調査などの成果を公開・展示します。

**とき** 4月24日(出)～6月20日(日)



磐城平城本丸御殿の調査風景

**石炭・化石館「ほるる」** ☎42-3155

## 続・炭鉱とスポーツ

スポーツと炭鉱との関わりについて、当時の写真や絵はがきなどの資料を通して、過ぎし日の人々の息吹を紹介します。

**とき** 4月24日(出)～7月4日(日)



実業団駅伝の写真

**暮らしの伝承郷** ☎29-2230

## 古民家模型展パート5「大内宿」

国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている南会津郡下郷町の大内宿の模型を、実際の町並みと同様に配置・展示します。

**とき** 4月24日(出)～6月6日(日)



大内宿（米屋）の模型

**勿来関文学歴史館** ☎65-6166

## 野口雨情～童謡詩人といわき～

『七つの子』『赤い靴』『シャボン玉』などの童謡で知られる童謡・民謡詩人野口雨情といわきとの関わりについて紹介します。

**とき** 4月24日(出)～7月4日(日)

20代の頃の野口雨情▶ 北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館蔵



**市立美術館** ☎25-1111

## クレパス画名作展 近代の巨匠から現代の作家まで

大正・昭和期の巨匠から現代の作家まで幅広い顔触れによるクレパス画の名品を紹介します。

**とき** 5月29日(出)～7月4日(日)

## tupera tupera のかおてん。

絵本などで活躍するtupera tuperaによる「顔」をテーマにした絵本原画や体験型作品などを紹介します。

**とき** 7月17日(出)～8月29日(日)

《謎のおおきな「床田愉男」》 撮影 阿部高之



施設	市立美術館 ☎25-1111 毎週月曜日	草野心平 記念文学館 ☎83-0005 毎週月曜日	勿来関 文学歴史館 ☎65-6166 毎月第3水曜日	暮らしの 伝承郷 ☎29-2230 毎週火曜日	アンモナイト センター ☎82-4561 毎週月曜日	考古資料館 ☎43-0391 毎月第3火曜日	石炭・化石館 「ほるる」 ☎42-3155 毎月第3火曜日	いわき芸術文化 交流館アリオス ☎22-5800 毎月第2火曜日
4	Next World 「夢みるチカラ展」 (4/3～5/16)	草野心平のオノマトペ 生きてゆく擬音 (4/17～6/27)	野口雨情 童謡詩人といわき (4/24～7/4)	古民家模型展パート5 「大内宿」 (4/24～6/6)		発掘速報展 (4/24～6/20)	続・炭鉱とスポーツ (4/24～7/4)	
5	クレパス画名作展 近代の巨匠から 現代の作家まで (5/29～7/4)	草野心平のスケッチ (7/3～9/26)	こころまでわかった 勿来の古代 (7/10～9/14)					
6		中原淳一展「美しく装うこと」 大切さ (7/17～9/12)						
7	tupera かおてん (7/17～8/29)							
8	REVISIT 「アーカイブに見る 美術館のキセキ」 (9/11～10/24)		田部君子 (9/18～11/16)					
9		吉野せい (10/2～12/19)						
10	いわき「ほるる」 化石展 (11/6～12/19)							
11								
12								
来年	市小・中学生 版画展 (1/5～16)	草野心平 (1/23～3/27)	大須賀筠軒とその時代 (11/20～2/15)					
1								
2	第51回市民美術展覧会 (1/21～2/27)		幕領小名浜の代官 (2/19～4/19)					
3								



旧正月の初市・平字二町目の本町通り〔昭和10(1935)年頃 平町役場発行〕

石城郡の中心・平市街

絵はがきが登場した明治時代から、大正、昭和時代中期までは、都市と農山漁村の区別が明確に分かれていました。そのため、日々の暮らしに余裕のなかった農山漁村の人々は、商店が連なった最寄りの街に出掛けたり、最寄りの小さな町の様子を見聞きできたりしても、いわきの中心地である平市街

絵はがきの  
中の  
「いわき」



明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されてきました。今月号から絵はがきに残る当時の風景などを通して、市内十三地区の歴史や文化をひもときます。へ出掛けることは、めったにありませんでした。平市街のような大きな町がどのような所なのかは、人づてに聞いたり、新聞を読んだりして知ることができましたが、昭和時代中期まで、新聞には写真がほとんど掲載されておらず、自分の目で確認する唯一の方法は、絵はがきを頼りにすることでした。実際に平市街は、政治や経済、文化、商業など、最も都市機能が充実しており、他の町村とは全く異なった景観を見せていました。絵はがきの対象となった郡役所や郵便局、平字一町目から五町目までの街並み、二・三階建ての旅館・料亭、貸座敷(遊郭)、銀行本店、病院、いわき地方で初めて行政が敷設した水道事業のほか、各種大イペントなどは、いずれも農山漁村にはないものであり、特に、博覧会や平七夕まつり、初市の開催時には、大勢の人々が近くの町や村から集まりました。当時、まだカラー写真はなく、その目がくらくらするような光景の一部は、着色された絵はがきに収められています。(いわき地域学舎 小宅幸一)

# リレートーク 284

## 海外での経験を生かし 新たな誘客策を



### 三戸大輔さん

川前地区地域おこし協力隊。昨年6月に着任し、いわきの里鬼ヶ城への誘客や地区の資源の磨き上げに取り組んでいる。

Q 地域おこし協力隊に応募したきっかけを教えてください。  
A 旅行が好きで、働きながら世界を旅してきました。旅先ではよくゲストハウスを利用していましたが、旅行者やその国の方々といろいろな話ができる環境に魅力を感じ、いつしか自分でもゲストハウスを作りたいと考えるようになりました。  
また、オーストラリアにいた時、自家製のビール作成キットが売られていたので、何気なく始めてみるとビール作りにも魅力を感じました。勉強のため、ビールの本場ドイツに行き、その後は、広島県で醸造士になるための修業をしていました。  
その時に、地域おこし協力隊の制度を知りました。地元であるいわきの川前地区で、ゲストハウスの運営



他地区の協力隊と協力して実施したイベント「秋の大収穫祭」

やビールの醸造をやってみたいと思いい、応募しました。  
Q 活動内容について教えてください。  
A 川前駅前で夏に開催される納涼屋台などの地区行事へ積極的に参加し、地区の皆さんと交流を深めています。また、いわき・ら・ら・ミュウで開催したイベントでは、他地区の協力隊と合同で各地区の特産品などを販売しました。純川前産菜種油「なのはなピュアオイル」の販路拡大のため、こうしたイベントやインターネットを通じてPRもしています。  
私を温かく迎え入れてくれた地区の皆さんからは「地区の現状を悲観することが少なくなった」「元気がなった」と言ってもらえて、うれしさややりがいを感じています。



なのはなピュアオイルの販売促進に向けて市内施設で営業活動を実施

Q 今後の抱負を教えてください。  
A 川前産ビールを作ることです。昨年の冬から大麦の栽培を始め、今後のホップの栽培も始める予定なので、ビールを通して私の夢や思いを地区の皆さんにお見せしていきたいと思っています。  
また、観光客の受け皿となるゲストハウスの開設を川前駅前で計画しています。地区では人口減少と高齢化で過疎化が進んでいますが、夏井川渓谷や国の天然記念物である沢尻の大ヒノキ、特産品のソバ、いわきの里鬼ヶ城などの資源が豊富です。これらの資源を保存・継承する活動を行いながら、ビールとゲストハウスを連動させた新たな誘客策を計画し、地区の皆さんと共に成長していきたいです。

### こんにちは市長室から ⑬



### 「安全・安心なマチ」

いわき市長 清水敏男

3月28日、本市の地域医療の「最後の砦」と言っても過言ではない市医療センターがグランドオープンしました。既に平成30年12月に開院していたので、通常の診療のみならず、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症への対応についても、市民の皆さんの期待に応えられたこと、大変うれしく思います。

また、新病院となり、臨床研修医の希望者が増え、2年連続で募集定員全員が決まるな

ど、医師<sup>しょうへい</sup>招聘にも効果が表れています。グランドオープンにより、来院される方の利便性も増し、より一層市民の皆さんから愛される病院になることを期待しています。

新年度を迎え、市役所の組織にも変化がありました。東日本大震災の被災後、その復興途上での台風被災や新型コロナのまん延など、次々に押し寄せる危機事象に対応するためには、平時から体制を整えておくことが肝要です。そこで新たに、危機管理部を単独で設置するとともに、超高齢社会の救急需要の高まりを見据え、消防職員の定数を新たに28人拡充し、段階的に増員していくこととしました。

東日本大震災から10年の節目を迎え、市民の皆さんの生命・財産を守るべく、これまでに以上に安全・安心なマチを創ってまいります。